

## 日消連がアンケート実施

# 人工芝の耐用年数は2年!? マイクロプラ対策は有効か

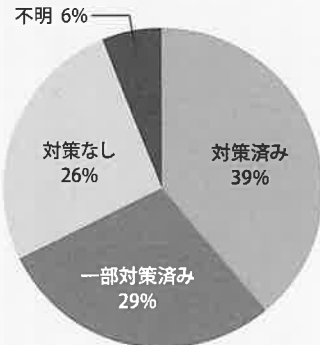
日消連・環境部会 栗岡理子

日消連・環境部会では今秋、人工芝の使用状況を知るため東京都内と神奈川県内の全自治体にアンケートを行いました。山梨県内や山形県内の人工芝使用状況については、既に地域の団体が調べているため、全国的な状況を把握するには首都圏の状況も知る必要があると考えたためです。

### 人工芝由来のマイクロプラ、9割以上が行方不明

まだ調査数が少なく全国的な傾向と

東京都内自治体のマイクロプラスチック流出防止対策  
(アンケート回答より、有効と思えない対策もそのまま集計)



(対策済み 12自治体、一部対策済み 9自治体、対策なし 8自治体、不明 2)

自治体が勘違いする原因の1つは、環境省が作成した「人工芝からのマイクロプラスチック流出防止」リーフレットにあるようです。リーフレットの「発生対策」の冒頭に「日常点検(パイル片の除去等)」と書かれていますが、どこをどの頻度で点

検すべきかの具体的な記述はありません。そのため多くの自治体が誤解してしまっています。

実証実験を行いながら、テニスコートマイクロプラ流出抑制に取り組む多摩市のガイドラインによると、テニスコート1面からは年間約10・5キログラムのマイクロプラが発生します。しかし同市が行った実証実験で、フィルターで捕捉できた量は年間約450グラムです。残りの約10キログラムは大雨でフィルターの上を越えて流れ出してしまふことや、側溝以外から流出した可能性などが考えられています。また、同ガイドラインでは、設置後でもないテニスコートからのマイクロプラ発生は確認できないが、2、3年経過した後のコートからの発生は確認できることも報告されています。

これについて、京都大学・田中周平准教授も環境省の「マイクロプラスチック・スマート懇話会」の人工芝ワーキンググループで、太陽光を浴びた人工芝は2〜4年でしなやかさがなくなると話しています。「おそらく屋外では2年から4年使つて、弱くなつてきた時に、大気中の微小プラスチックの濃度が急上昇する時期が来ると思う」(同懇話会報告書)とのこと。

つまり、人工芝は2年を境に急速に摩耗による微細化が進み、大気中へマイクロプラをまき散らすのです。それならば、大気中への飛散を止める手立てがない限り、人工芝の耐用年数は一般にいわれているような10年ではなく、2年ではないでしょうか。

### 廃棄代わりに

#### 人工芝を「リユース」

東京都では人工芝施設を保有する自治体の1割に使用済み人工芝のリユース経験があります。神奈川県内でも土留め代わりに使用済み人工芝を再利用している自治体がありました。産業廃棄物としての処理費用が莫大で、埋め立ても簡単ではないためです。メーカーもサービスの一環として再利用を後押しし、ソーラーパネルなどの下に防草マットとして敷設しています。しかし、古い人工芝を再利用することによる環境への影響は、廃プラの不法投棄と変わらない可能性があります。人工芝は再利用すべきものではありません。

アンケート結果は日消連ウェブサイトに掲載します。

